

赤津ゼミ個別ガイダンス資料

【ゼミの基本コンセプト】

研究しないと大学生じゃない！？

既存の知識・見解の受容（勉強） 知識・見解の受け手（高校生）

新しい知識・見解の生産（知的生産：研究） 知識・見解の発信者（大学生）

受け手から発信者にレベルアップする場：ゼミナール

【ゼミ生個々人の研究テーマ】

何についての知識・見解を生産・発信するか？ ⇒ 自由

→ ゼミに入らなくてもいい？ → 否 → 研究のやり方（知的生産の方法）を学ぶ必要

【ゼミの共通テーマ】

共同で歴史研究，実証的研究，帰納法的研究の方法を学ぶ。

：経済・政治・社会上の様々な事象（問題・変化）に関する説明（「なぜ？」・「どのように？」）を過去の事実・データを使って生み出す方法について学ぶ。

具体的にはまずは，歴史研究，実証的研究，帰納法的研究を行ったこれまでの研究者の論文などを輪読する。

：指導教員の19世紀イギリスの大気汚染規制に関する論文（日本語）

環境問題への対策は「なぜ」・「どのように」進展（or 停滞）するのかを過去の事実を使って解明

：A・D・チャンドラーJr.の20世紀アメリカの巨大工業企業の成長と衰退に関する論文（英語）

巨大工業企業は「なぜ」・「どのように」成長（or 衰退）するのかを過去の事実を使って解明

↓

方法を学びながら自分の研究テーマ（→卒論へ）を決めてゆく。

【ゼミのもうひとつの共通テーマ】

共同で研究成果発信の方法を学ぶ。

：研究の成果は発信されなければならない。

ひとつは・・・論文

ひとつは・・・口頭発表

共同で口頭発表の方法を学ぶ。

テーマは教員が設定 ⇒ 学生は資料・情報を収集し整理して発表を作成する。

⇒ ゼミナール発表会などの機会に発表

【望む学生像】

結構大変かも？ イベントも色々あるかも？

⇒ 研究だけでなくイベントにも積極的に関われる学生

⇒ イベントだけでなく研究にも関心があり社会経済について問題意識のある学生